



創立120周年記念イベント 健康フェス2015 ～いきいき元気健康家族～



大勢の来場者で賑わった健康フェス2015 (関連記事 P5)



主な内容

- 特集———— がんプロフェッショナル養成基盤推進プランについて
- トピックス———— 健康フェス2015が行われました
- 岩手医科大学募金状況報告
- フリーページ———— すこやかスポット医学講座No.59
「大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁留置術 (TAVI)」

がんプロフェッショナル養成 基盤推進プランについて

がんプロコーディネーター **杉山 徹**
(産婦人科学講座 教授)



事業概要及び目的

がん対策基本法の施行に伴う様々な事業の一つとして、平成24年度から「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」（以下第二期がんプロ）補助事業が開始され、今年で4年目を迎えております。

本学は、順天堂大学を主幹校とした合計7大学（順天堂大学、島根大学、鳥取大学、岩手医科大学、東京理科大学、明治薬科大学、立教大学）で連携し、「ICT※と人で繋ぐがん医療維新プラン」をテーマに様々な事業に取り組んでおります。連携7大学の中央と地域をICTと循環型人材交流で結び、それぞれの特色を活かしながら相互に連携・補完して、地域から世界まで、さらに基礎から臨床まで俯瞰するがん研究者・医療人の養成を目的としております。本プランは、首都圏と東北・山陰と広範囲に渡る連携事業ということで、ICTを活用した様々な事業を展開しております。定期的に関行される連携大学の運営連絡会議は、テレビ会議システムを効果的に利用していますし、本学と順天堂大学及び連携大学間ではシステムを利用した定期的なカンファランス・シンポジウム等を実施しています。

※ICT：情報通信技術

活動実績

1. 教育コースの設置（平成25年度開講）

区分	コース名	目的	受入実績
大学院医学研究科 博士課程	緩和ケア地域医療連携を支援する指導的医療人育成コース（緩和ケア医療学）	緩和ケアについての基礎的な知識・技術を獲得するとともに、実践的演習を通じて、チーム医療を構成する各職種の専門性を理解し、適切なコミュニケーション、情報の共有方法、およびチームマネジメントの手法を学ぶ	4名
インテンシブコース （一般）	先導的がん臨床研究に精通した医療人育成コース	地域で求められる標準的医療の均てん化・先進医療技術の習得および将来へ向けた次世代がん研究（医薬品、医療機器など）に向けた臨床研究を立案・実施、支援できるがん医療に関わる人材を広く育成すること	15名

■上記教育コースは、次年度も開講いたします。多くの方々の入講をお待ちしております。

2. 講座（学科）の設置（平成25年度）

（1）緩和医療学科

（2）放射線腫瘍学科

がんプロ学生等の教育及び支援体制を整備、その他各種催しにおいても所属教員は中心的な役割を担っております。

3. FD、講演会等の開催

- ▶ 連携FD研修会（平成24・27年度）
- ▶ キッズがんセミナー（平成26・27年度）
- ▶ 国際シンポジウム（平成26・27年度）
- ▶ ICTを利用した連携大学とのテレビカンファランス（乳腺等、定例又は不定期で開催）
- ▶ 各種講演会、シンポジウム開催（年数回開催）
- ▶ 連携大学ICT特別講義（年1回開催）
- ▶ 緩和ケアテレカンファランス（毎月開催）
- ▶ 対話カフェ（毎月開催）、他

平成27年8月8日 キッズがんセミナー



平成27年10月2日 連携大学ICT講義



写真左から：
看護部長室 三浦 看護師長（乳がん看護認定看護師）
小児科学講座 遠藤 准教授
聖路加国際病院 チャイルド・ライフ・スペシャリスト 三浦絵莉子 講師
腫瘍内科学科 伊藤 教授
外科学講座 柏葉 講師

上記催しには、がんプロ学生（大学院生、インテンシブコース受講生）、学内関係者及び一般市民の他、連携大学からも多数参加され、活発な意見交換が行われております。

特に、「連携大学ICT特別講義」、小学生及びその保護者を対象とした「キッズがんセミナー」、がん患者を交えた「対話カフェ」等は、参加者から高い評価を受けており、本事業の取り組みを社会へ向けて広く情報発信する場として、今後も継続して実施していきたいと考えています。皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

今後の展望

これまで実施してきた事業を通じて、人と人との繋がりをより強く感じるとともに、当該がんプロ事業が着実に進捗している実感を持つことができたと感じております。

一方で、平成26年度に実施された中間評価及び外部評価において、遅れている事業への対策、事業の評価方法及び最終的な成果（アウトカム）等について厳しい評価もあり、今後の課題が山積しているのも現状です。

今後は、ICTを活用しこれまで以上に連携大学間の連携の強化を図りながら、積極的な人材交流等を行い、岩手のみならず、日本のがん医療の均てん化が一層進むように努力して参りたいと考えます。

第3回内丸地区跡地活用を考えるワークショップが行われました

9月1日(火)、創立60周年記念館10階同窓会室において、将来的な内丸地区附属病院移転跡地の活用をテーマとして、岩手県・盛岡市・盛岡商工会議所・本学の4者間による「附属病院跡地を活用したまちづくりを考えるワークショップ」が開催されました。

本ワークショップは、岩手医科大学附属病院移転後の跡地に係る盛岡市中心市街地の空洞化の抑止、県都盛岡の活性化について、産学官が一体となってその

活用方法を検討していくことを目的として、本年6月より開催されています。

最終回となる今回はこれまでのまとめと発表が行われ、附属病院跡地の活用方法の検討を通じたこれからの盛岡市の在り方について建設的かつユニークな提言があり、今後の活用方法の検討に活かされることが期待されます。



全体発表の様子(写真は医務課小野係長)



ワークショップ参加者

平成27年度高度看護研修センター フォローアップ研修会が行われました

9月5日(土)、創立60周年記念館8階研修室において、高度看護研修センター認定看護師フォローアップ研修会「実践・指導・相談に役立つファシリテーション」が行われ、全国から約75名の参加者がありました。

この研修会は、認定看護師としての役割を果たすためのファシリテーション(コミュニケーションを容易に

したり、促進すること)を理解し活用することを目的に、ひとづくり工房esuco(糸すこ)浦山絵里代表を講師としてお招きして行われました。

参加者は、看護の現場におけるファシリテーションの手法や、ちょっとした対話のコツなどを体験しながら学びました。



ひとづくり工房esuco(糸すこ)浦山絵里代表



研修の様子

創立120周年記念イベント「健康フェス2015～いきいき 元気 健康家族」が行われました

9月12日(土)、矢巾キャンパスにおいて、創立120周年記念イベント「健康フェス2015～いきいき 元気 健康家族」が行われました。当日は、晴天にも恵まれ、約1,600名の皆様にご来場いただき、大盛会のうちに終了しました。関係者の皆様には心より御礼申し上げます。当日のイベントの一コマをお届けします。



ウェルカムアーチ



キャンパスモール内の様子



受付



基調講演
「創立120周年記念事業について」
理事長 小川 彰



特別講演
「いのちが最優先される社会の実現」
参議院議員・岩手医科大学客員教授 川田 龍平 氏



創立120周年記念事業募金
顕彰セレモニー



不妊フォーラム
「赤ちゃんを望むすべての方へ」
産婦人科学講座 助教 尾上 洋樹



公開講座
「今からでも遅くない糖尿病予防」
糖尿病代謝内科分野 教授 石垣 泰



公開講座
「歯とかみ合わせと全身の健康」
補綴・インプラント学講座 教授 近藤 尚知



公開講座
「医療情報とのつき合い方」
人間科学科哲学分野 教授 遠藤 寿一



公開講座「体の中に薬を作る」
神経科学講座 教授 駒野 宏人



ヨガ体験
神経科学講座 教授 駒野 宏人



ヘルスチェック
身長、体重、体脂肪、血圧、血管年齢、骨密度、血糖値



健康相談コーナー



おくすり相談コーナー
薬学部、薬剤部によるおくすり相談



災害時地域医療支援教育センターブース
パネル展示と、非常備蓄食料の提供



DMAT車輛展示



お口のコーナー
CCDカメラでお口観察



リンパドレナージ体験
上肢のリンパドレナージを模擬施術



妊産婦相談コーナー
妊産婦よろず相談、沐浴体験・指導



救命救急とAED講習会



歯科材料体験&プレゼントコーナー
石膏模型をプレゼント



栄養コーナー
減塩クイズや栄養相談、試食会



肩こり・腰痛体操
理学療法士が手軽な体操をレクチャー



体力測定
筋力、敏捷性、調整力測定



薬用植物園案内
東洋医学研究会の学生がご案内



わっかで作るシャボン玉
歯科材料を使用したシャボン玉コーナー



学術展示（衛生検査部）
「長寿県」位の長野県と岩手県を比較



ドクターヘリ見学



オリジナルワンコイン学食（薬膳）
肉、魚、カレーの3種類を提供



図書館イベントLibrary+
どんなお仕事？ー臨床心理士ー



パフォーマンス同好会
お子様へバルーンアートをプレゼント



健康〇×クイズ



さんさ踊り部ステージ発表



タケルンジャー&わたまるくん
ショー



国体PRダンスショー



矢巾北中学校特設合唱部



松ぼっくりアイス販売



餅まき大会



グルージャ盛岡と遊ぼう



産直販売（矢巾町）

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

平成26年6月から始まりました岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第5回目の御芳名紹介です。(平成27年7月1日～平成27年8月31日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等 (3件)

<20,000,000> 株式会社 こすかたサービス (岩手県盛岡市)
 <御芳名のみ掲載> 医療法人 翼友会 (岩手県盛岡市)
 医療法人社団 千葉医院 (宮城県登米市)

(順不同、敬称略)

●個人 (12件)

<500,000> 村上 亮介 (医55)
 塚原 正典 (医19) 齋藤 順子 (医31)
 <100,000> (順不同敬称略)

安住 倬 (専15)
 <御芳名のみ掲載>
 内村 忍 (医22)
 鬼怒川 信孝 (父母)
 土井田 稔 (教職員)
 齋藤 政孝 (医24)
 山内 博 (父母)
 澤田 啓子 (父母)
 佐上 俊和 (父母)
 菊池 一嘉 (歯2)

区分	申込件数	寄付金額 (円)
圭陵会	255	209,880,000
在学生ご父母	195	129,945,000
役員・名誉教授	26	25,160,000
教職員	66	11,377,000
一般	19	17,880,000
法人・団体	65	214,500,000
合計	626	608,742,000

(平成27年8月31日現在)

省エネ推進委員会だより

【夏季の節電活動】の結果報告について

今夏も職員の皆様にご協力いただき「夏季の節電活動」を実践しましたが、期間内における電力使用量の集計が纏まりましたのでお知らせします。

【夏季の節電活動】概要

【実践期間】

平成27年6月1日～8月31日まで (クールビズは9月30日まで)

【節電目標】

実践期間内の消費電力量 (合計) の昨年度比1%削減

【実践項目】

冷房温度28℃設定 (病棟・診察室等は弱冷房の励行)、不要照明の消灯、待機電力の削減、クールビズ活動

まとめ

今夏は、内丸、花巻、PETが目標を達成しましたが、矢巾は昨年度に引き続き今年度も増加、また、医療専門学校は昨年度より大幅な増加となりました。主な増加要因としては、例年に比較して7月～8月の外気温が高く推移したため、冷房の稼働時間が増加し相対的に電力使用量が増加したことが予想されます。なお、医療専門学校の増加要因は、今年度から技工学科が移転したことによるものです。

外的要因 (外気温による冷房稼働) によって電力使用量は大きく変動します。節電を意識するあまり職場環境が悪化しては本末転倒ですので、無理のない範囲で空調の設定温度を緩和する、使用していない部屋の空調は停止していただくなどの対応を引き続きお願いします。

施設別電力使用量集計 (単位: 千Kwh)

施設名	期間の合計	(前年度比)
内丸	4,894.7	(-1.3%)
矢巾	2,650.4	(+2.1%)
本町	62.9	(+5.8%)
花巻	191.6	(-3.7%)
PET	117.0	(-4.9%)
医療専	18.8	(+55.3%)
施設合計	7,935.4	(-0.2%)

電力使用量の推移 (月毎の施設合計量)





小児科学講座 西見早映子 専門研修医が第8回小児持続腎代替療法国際会議でベストポスター賞を受賞しました

7月16日～18日に英国ロンドンで開催された第8回小児持続腎代替療法国際会議において、西見 早映子 専門研修医の演題がベストポスター賞を受賞しました。本賞は86演題中の2演題に授与されたものです。

新生児は体外循環による持続腎代替療法を必要とする機会が多いものの、本療法の回路容量は約27mlと過大であり、回路内に血液を充填して本療法を施行することによる循環動態への影響や電解質異常、輸血関連合併症等が課題となっています。本研究では、新生児でも血液充填を必要としない回路容量3.2mlのシステムを開発し、溶質を添加した血液バッグを使用してその除去能が良好であることを報告しました。これは世界最少容量であり、シングルニードルの原理を用いて血液を循環させることで、大幅な容量削減が可能になりました。今後は臨床使用に向けた安全性の検討を行う予定です。



脳神経外科学講座 藤原 俊朗 助教が第43回日本磁気共鳴医学会大会で優秀大会長賞を受賞しました

平成27年8月10日(木)から12日(土)まで東京ドームホテルにて開催された第43回日本磁気共鳴医学会大会において、優秀大会長賞を受賞させて頂きました。この場をお借りして、高気圧環境医学研究科・別府高明教授、脳神経外科学講座・小笠原邦昭教授を始めとする、本研究にご協力頂いた数多くの先生方に感謝申し上げます。

日本磁気共鳴医学会は、核磁気共鳴法(nuclear magnetic resonance: NMR)ならびに磁気共鳴画像法(magnetic resonance imaging: MRI)に関する本邦最大の学会であり、その年次会は、医学はもちろん工学、生理学、心理学等の異なる分野の研究者が一同に会して議論する貴重な機会となっています。

今回の発表では、拡散強調MRIを用いた温度計測法を応用し、一酸化炭素中毒患者の脳の温度マップを開発した新たな試みが評価されたものと考えております。今大会での受賞者は、最優秀3名、優秀10名とのことでしたので、今回の受賞を励みにするとともに、次大会での最優秀大会長賞を目指し、今後も引き続き研究に精進して参りたいと思っております。

(文責：藤原 俊朗)



(壇上左から3番目が藤原助教)

薬学部1年生と被災地薬剤師との交流バスツアー

7月27日(月)、本学1年生対象の被災地薬剤師との交流バスツアーを開催しました。8月末の県薬剤師会主催の「被災地薬剤師との交流バスツアー」とタイアップしていた自由科目でしたが、1年生からの予想を上回る履修申請がありました。新入生のやる気に答えたいと悩んでいたところ、有り難いことに、釜石市に店舗をもつ中田薬局とワークインつくし薬局のご協力により、学生達の希望を叶える形で日帰りバスツアーを実現できることになりました。

多くの学生の参加動機は、震災時の薬剤師の活躍を知りたい、というものでしたが、その目的は達成できたと思います。学生の感想に、「もう一度(高学年になって専門を学んでから)是非きてみたい。でもその頃には震災の被害を感じさせる風景はなくなっているかもしれない」とありました。おそらくその通りで、だからこそ各自が今回の学びを自分の将来像(薬剤師像)に活かす努力を忘れないでいただきたいと願っています。

また、8月22日(土)、23日(日)開催の岩手県薬剤師会主催「被災地薬剤師との交流バスツアー」には岩手医科大学薬学部3年の3名が参加しました。こちらも参加した学生にとって、自らが東日

本大震災で被災されながら被災後の医療活動で活躍された薬剤師、医師、釜石市職員の方々から現地でも直接お話を聴きできたことは、貴重な経験になったと思います。加えて、他大学の薬学生との交流もよい経験になったようです。

今回のバスツアーでは薬剤師会の先生方、釜石の多くの皆様には大変お世話になりました。本当に有難うございました。

(文責：那谷 耕司)



「ボーイスカウト、そして ホームステイで学ぶこと」

財務部 経理課長 影山 雄太

この夏、世界最大のボーイスカウトの祭典「第23回世界スカウトジャンボリー」が山口県で開催されました。大会の活気ある様子は多くのメディアで報道されましたので、ご覧になった方もいらっしゃると思います。岩手県からも沢山のスカウトが参加し、各国の仲間たちと交流を深めることができました。

今回の世界ジャンボリーには152の国と地域から約34,000名が集結しましたが、とりわけボーイスカウト発祥の地であるイギリスからは、最大規模となる4,200名の参加がありました。さらに彼らは世界ジャンボリーの前後に全都道府県でホームステイを行うという意欲的な取り組みを実施し、岩手県のボーイ

スカウトでは大ロンドン北東部のスカウトたちを受け入れることとなりました。

ホームステイというと難しいことのように思われがちですが、決してそんなことはありません。自分が育った国の事、大好きな家族や友人との思い出、そして将来の夢……多くを語りあい同じ時間を過ごすことで、日本の若者も海外の若者も全く同じであると気づくことでしょう。

もしかして、あなたは外国語が苦手ですか？言葉は通じなくとも身振り手振りで気持ちは十分に伝わるものです。我が家でもホスト役の中心は、まだ英語を話せない息子たちでした。私の家族にとっても、海外の若者とふれあい心を通わせたことは、他では得がたい経験になったと思います。

さて、最後にコマーシャルです。このようにボーイスカウトは学校外での青少年教育として、国内外で様々な活動を行っています。ご興味のある方はお気軽にお問合せください！



岩手を訪れたイギリス隊の面々。14～17歳の元気なスカウトたちです。盛岡・北上・釜石に分かれてホームステイを行いました。



ホストファミリーに送られたワッペンセット。ロンドンの名所が美しくデザインされています。また、世界スカウトジャンボリーと同時期に行われた広島市の平和記念式典にちなみ、日英の友好が折り鶴で表現されています。



我が家にホームステイしたマシュー君とジャック君、鉈屋町で開催されたお化け屋敷での一コマ。長期に渡る日本滞在もなんのその、とても明るく気持ちの良い若者でした（右端が筆者）。



筆者が所属するボーイスカウト盛岡5団とイギリス隊との交流会。160名以上が集い、スイカ割りやさんざ踊りを楽しみました。

理事会報告（8月臨時－8月31日開催）

1. 附属病院移転事業に係る基本設計の計画変更について

基本設計について、①矢巾と内丸の診療機能の明確化、②1病棟あたりの病床数の削減、③手術室数の削減の三点による面積の縮小を重点事項とする基本設計の計画変更について承認

シリーズ 職場めぐり

呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野 内科学講座

呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野は、山内広平教授を中心に教員と大学院生合わせて21名の診療科です。医員は全て呼吸器疾患の診療に従事し、さらに喘息などのアレルギー性疾患、肺癌、膠原病とそれに合併する肺炎、心身症を専門とするものに分かれ、患者さまの多彩なニーズにこたえています。近年個別化医療が広く行なわれておりますが、当科では15年前から喘息患者さまの肺機能低下の原因遺伝子を探り予防をしてきました。肺癌診療では分子標的薬が著効する新たな遺伝子群を解析することにより、肺癌患者さまの生存期間の延長につながっています。さらに抗不安薬の有効性を示す遺伝子変異についても現在探索の準備を進めています。私たちは稀な疾患から喘息・COPD・肺炎など頻度の高い疾患まで多彩な疾患を扱っていますが、一人ひとりの患者さまに

合わせて診断方法や治療を選択し、心のこもった質の高い医療を提供したいと思っています。

(准教授 中村 豊)



中央臨床検査部 (採血室)

採血室は西病棟2階、消化器・肝臓内科外来からの渡り廊下の先にあります。スタッフは受付事務に1名。採血は看護師1名、パート看護師4名、検査技師1名で担当し、採血管の準備確認と患者誘導、採血後の採血管回収にパート事務員3名と検査技師1名で担当します。最大時の人員は11名が必要になります。

採血の混雑は午前9時から10時半頃にあり、その後12時頃まで患者さんは絶えず来ます。ピーク時の待ち時間は最長50分位になることもあります。午前中は採血台6席を使用しフル回転で採血をします。午後には込み具合により、1～3席で採血をします。また、2時頃から翌日分の予約済み採血管の準備をし、各病棟に配達作業をします。

採血業務開始時から毎年患者数は増加を続けていて、今年は毎月の平日平均採血患者数が440人前後

になっています。今後も増加が予想されるので混雑解消の為、少しずつでも採血室の作業環境や業務の流れの改善を検討していきたいと思えます。

(主任臨床検査技師 昆 浩)



看護部 (東病棟7階)

東7階は病床数47床の泌尿器科病棟です。悪性腫瘍が8割以上を占め、化学療法・放射線治療・手術(ロボット支援下手術、ウロストーマ造設等)・緩和医療など多くの科の患者さんが入院されます。また、腎不全患者の増加による透析導入や腎移植等、自己管理のため継続的な関わりを必要とする方の入院も増えており、入退院が多く病床稼働率は90%以上を占める多忙な病棟です。

看護師は、報告・連絡・相談を密にし、笑顔を忘れず患者さんが声を掛けやすい雰囲気大切にしています。そして、「プライバシーに配慮し、患者さんやご家族の思いを尊重した看護を提供する」ことを目指し、ICに同席・患者家族の想いを傾聴し記録することを実践、多職種を巻き込みながら看護が提供できるように研鑽しています。また、腎不全患者さんのQOLの維持

向上に向け、医師・泌尿器科外来・血液浄化療法部スタッフと協働しながら療法選択支援に取り組んでいます。

(主任看護師 永野 桂子)



編集委員コーナーNo.2

栄養部 お誕生日の「お子様ランチ」

脳腫瘍で入院している女の子のお母さんから「もうすぐお誕生日なのですが、何かしてあげられないでしょうか。」とお話がありました。

お母さんから本人の好きなものをお聞きし誕生日当日、本人へサプライズのお子様ランチを提供し、主治医、看護師、緩和ケアチームみんなでお祝いしました。

栄養部では緩和ケアチーム介入の方に、個別にお食事をご用意することができます。ご質問などありましたら西栄養部(内線 3657)までご連絡ください。

(編集委員 大須賀 志穂)

ドリアには
「HAPPY
BIRTHDAY」
と「うさぎさん」



～メニュー～

ドリア
から揚げ
ミートボール
ほうれん草のお浸し
コーンスープ
デザート

担当した
松岡調理師



患者さんが食べたい料理を可能な限り対応し提供していきたいと思っています。喜んで食べて頂ければ何より嬉しいです。

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰 菊池 初子
影山 雄太 江刺家 和恵
松政 正俊 佐々木 さき子
齋野 朝幸 米澤 裕司
小山 薫 佐々木 忠司
藤本 康之 畠山 正充
佐藤 仁 大須賀 志穂
成田 欣弥 武藤 千恵子
山尾 寿子 野里 三津子

編集後記

表紙の写真にもあります健康フェス2015は予想を超える来場者数となり、ヘルスチェックには順番待ちの長い列ができるなど大盛況でした。

栄養部では調理師による減塩食のデモンストラーションや試食等を行いました。途切れることなくたくさんの方が集まり、質問や相談も多く聞かれ健康に対する意識の高さを感じました。

岩手県は脳卒中死亡率全国最下位から脱却するため、毎月28日を「いわて減塩・適塩の日」とし、県をあげて減塩に取り組んでいます。

当院でも、今回好評だった減塩メニューを病院食に取り入れています。今回のイベントが、減塩を意識するきっかけとなれば嬉しいです。

(編集委員 大須賀 志穂)

岩手医科大学報 第469号

発行年月日 平成27年10月31日

発行者 学長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL. 019-651-5111 (内線7023)

FAX. 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp



心臓血管外科学講座 助教 鎌田 武

大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁留置術 (TAVI)

大動脈弁狭窄症

大動脈弁狭窄症とは心臓の出口にあたる大動脈弁が硬化性変化を来す疾患です。大動脈弁の可動性が失われ、心臓から全身への血液の通り道が狭くなる疾患です。病状が進行すると、胸痛や息切れ等が出現するようになり、重症化すると心不全の合併、失神、さらには突然死に至る場合もあります。失神が出現してからの平均余命は約3年、心不全では2年と重症大動脈弁狭窄症の予後は非常に不良であります。高齢化社会の進行に伴い、退行変性（老人性）による大動脈弁狭窄症を患う患者さまの数が増加してきております。

大動脈弁狭窄症の治療

大動脈弁狭窄症に対する根本的な治療法は、大動脈弁置換術（AVR）が唯一の治療法でありました。手術危険度も低く、術後の長期予後も良好な安定した術式であります。一方で体外循環を用いた非生理的循環動態の下、心停止下に弁置換術を行うため、頸動脈病変、肝機能低下や悪性腫瘍などの合併疾患を有する患者さまは、体外循環を必要とするAVRの手術

適応とはならず根本治療が出来ない状態でありました。

経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）は大動脈弁または左心室からカテーテルを挿入し、人工弁を大動脈弁位に留置する新しい治療法です（図1）（図2）。TAVIは体外循環を使用する事無く、心臓を動かしたまま人工弁を留置する事ができる点が画期的であり、AVRを断念せざるを得なかった患者さまには大きな福音となっております。2002年にフランスで第1例目が施行され、本邦では2013年10月より保険診療として本格的に治療が開始されました。当院は東北・北海道地区において最初に認定されたTAVI実施施設であり、現在まで多くの患者さまに治療を受けて頂いております。TAVIはカテーテルを用いた外科治療という特殊性から、心臓血管外科と循環器内科のみならず、麻酔科、放射線科、看護師、臨床工学技士、放射線技師などがハートチームを結成し治療を行っております。低侵襲治療の需要が高まる中で、安全でより質の高い治療を行える様にハートチームで取り組んで参ります。今後とも皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

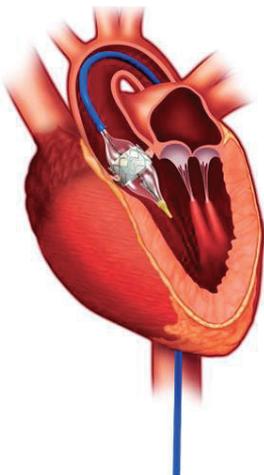


図1：大腿動脈からアプローチ

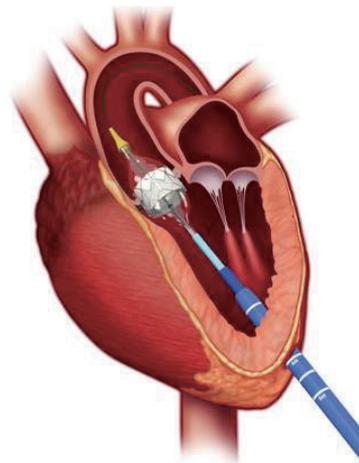


図2：心尖部からアプローチ

岩手医科大学附属病院 循環器医療センター ハートチーム

<http://tavi.iwate-heart.jp>